

## 支援事例の紹介

## 株式会社 長根商店 (洋野町) の取り組み

残暑が落ち着き、空の高さに本格的な秋の訪れを感じる頃、ここ洋野町の株式会社 長根商店 (以下 長根商店) ではキノコの加工作業がピークを迎える。

創業より30年を経過するキノコの加工業者である長根商店は、メインに天然キノコを取り扱う全国的にも珍しい会社である。

同社で加工されるキノコは年間約300トン、その7割が「アミ茸」であり、キノコ採りが趣味の人には「あみのめ」「あみっこ」の愛称で親しまれる最もポピュラーなキノコのひとつである。しかし、天然国産アミ茸はここ10年の間にその採取量を10分の1にまで減少させており、その9割を中国産のアミ茸に依存しているのが現状である。

アミ茸採取量減少の一番大きな理由は、山林の荒廃が考えられている。森林県である岩手県においては年々、林業従事者が減少・高齢化しており、山の手入れをする人材不足が深刻化している。確かに、アミ茸は樹齢10～15年の赤松の根に共生して成長するが、洋野町山林にも樹齢20年を越える赤松が圧倒的に多い。

こうした状況を何とか打破するべく、平成18年度中小企業戦略的総合支援事業に同社より申し込みを受けたのが昨年4月、希望する支援内容は「天然キノコの収穫量を増加させるために様々な実験をしたい。天然アミ茸の自然界における増殖法を地域産業として確立したい」というものであった。

キノコの加工業者において加工する原材料の減少は死活問題である。加えて中国産椎茸の残留農薬問題がマスコミから流れると、いくら天然アミ茸といえども中国産というだけで販売が伸び悩む現状も危機感を募らせた。一方で、大手量販店からは天然国産であればいくらでも商談に乗るとのオファーもあった。

当センターにおける長根商店への取り組みは、補助金を活用して下草刈りや腐葉土を除去することできれいな試験林を作る山林環境整備から始まった。キノコのこを考えると山林の手入れが不可欠という信念のもと、下草刈りや腐葉土を除去することできれいな試験林が出来上がった。その試験林の中で方角、傾斜、樹齢等、様々な条件のもと30カ所に及ぶ実験場所を選定し、当センターがコーディネートして岩手県林業技術センターの指導のもと、現在も継続して詳細な記録をとり続けている。同様に、購入した簡易培養試験棟でも岩手県林業技術センターの指導を仰ぎアミ茸菌の培養なら



下草刈り・腐葉土除去で手入れが行き届いた試験林。条件を変えた30カ所で試験を行い、詳細なデータを収集している。



びに増殖の実験が行われている。

また、落雷があった場所にキノコがたくさん発生するというジンクスの実証実験として、自然界の地面に人工的に作り出した雷を流すパルス実験も試みた。こちらは、岩手県林業技術センター同様に当センターがコーディネートし岩手大学工学部の協力・指導のもと昨年の11月に実施し、今秋の成果を楽しみにしている状況である。

支援に携わった一年を振り返り、当センターの支援の効果が一番評価されるとすれば、長根商店の取り組みをメンターとしてコーディネートするとともに地域に幅広く認知させたことに尽きるのではないかと考えている。

素直で前向き、勉強熱心な経営陣のもと長根商店の取り組みが地元の森林組合、洋野町を巻き込み地域振興の可能性を含んだ産業へと成長しつつある今、地方特産物の代名詞として有名な高知県馬路村の「柚子」のように、岩手県洋野町の「あみ茸」が全国へ販売される日も遠い話ではないかもしれない。

(担当:新事業・研究開発支援グループ 多田 世識)